

社長兼CEOビル・ピエロニ氏が訪日(上)

損害保険市場の標準化に向けて

標準化団体ACORD

世界の保険業界のために標準化を推進している非営利団体ACORD (Association for Cooperative Operations Research and Development) の社長兼CEOであるビル・ピエロニ氏が2019年10月に来日した。トムソンネットの全面的な支援により実現したもので、非公式であったものの日本の大手損害保険会社を含め、損害保険業界のキーパーソンとの会見や大手R&D企業である野村総合研究所(NRI)を訪問するなど、日本の保険市場の標準化に向けた一歩を踏み出すために意義のあるものとなった。ピエロニ氏は東洋経済新報社の高見和也記者との対談を行っており、トムソンネット、高見氏のご厚意により、その概要を2連載で紹介する。

—ACORDが活動を始めたのは、1970年頃だが、そのころ米国の保険販売の現場の状況は。 —

標準化により何がもたらされるのか。また、標準化により何が変化するのか、どんなメリットがあるのか。

—標準化に向けて、世界各国と同じように日本に対しても働き掛けは、これまでやられてきたのか。

—標準化に向けて、日本は、世界におけるトップの座を維持するためにも、日本国外で起きていることについて目を向けるべきだと思ふ。最近では、外国の保険会社を買収する機会があることから、標準化に接する機会は増えてきている。一例として、東京海上ホールディングスが、米国でPURE社を買収した。また、フィラデルフィア社もそうだし、ロンドンではキルン

と、その内部体制を形づくっている保険引受業務部門、保険数理部門、損害調査部門、営業部門としてデータ管理部門等、要するに全体的な変化が求められることになる。

—標準化に向けて、日本は、世界におけるトップの座を維持するためにも、日本国外で起きていることについて目を向けるべきだと思ふ。最近では、外国の保険会社を買収する機会があることから、標準化に接する機会は増えてきている。一例として、東京海上ホールディングスが、米国でPURE社を買収した。また、フィラデルフィア社もそうだし、ロンドンではキルン

社を買収している。こうした買収を通じて、フィラデルフィア社の業務処理がPURE社とよく似ていること、そしてキルン社も同じであり、これらの会社には標準があり、ACORD標準で動いていることを学べる機会になっていると考える。

また、業界ベースという視点ではなく、一つの企業内での仕事の流れ、データの流れに着目してみると、企業内での共通化した標準を構築しないまま、各部門が独自の必要性に応じて、その部門独自の最適なソリューションを実現してきているといえる。引受業務部門は、保険料を中心に置く形でのソリューションを求め、損害部門は、事故受けと迅速で的確な支払いに重点を置いているといえる。このため、同一

企業内での横断的で標準化されたフローが求められていると考えられる。

データについて

—引受情報のデータベース化により保険損害についての把握が瞬時に可能になると言われているが、その点は。

ピエロニ データの定義に全組織内で一貫性を持たせている保険会社は、世界中の2割もないだろう。保険引受情報

データベース化して、一貫性のあるデータモデルとして活用することで、ある保険契約で保険事故が発生した場合に、即時に損害額を把握することができるようになる。一例として言えるのは、台風が襲来してきた場合に、港湾施設のコンテナヤードに積み重ねられている一つのコンテナや海上の船舶に積載されているコンテナの中に何が積み込まれているのかを把握することが技術的にはできることになり、冷凍されている製品なのかどうか、廉価な玩具類が積載されているのか、それとも高付加価値を持つている機械部品が積み込まれているのか、水濡れしてしまっている製品なのか等、損調の支払いにかかるコストを含めて極めて短時間で予測することができるようになる。それが、データの標準化であり、標準化によりもたらされる恩恵だ。

また、業界ベースという視点ではなく、一つの企業内での仕事の流れ、データの流れに着目してみると、企業内での共通化した標準を構築しないまま、各部門が独自の必要性に応じて、その部門独自の最適なソリューションを実現してきているといえる。引受業務部門は、保険料を中心に置く形でのソリューションを求め、損害部門は、事故受けと迅速で的確な支払いに重点を置いているといえる。このため、同一

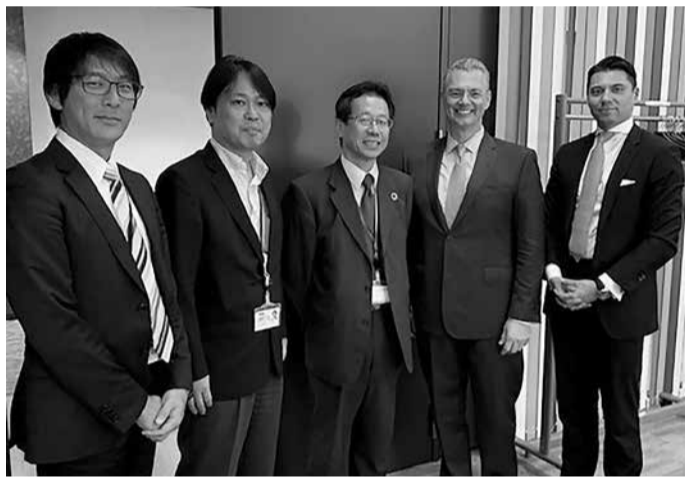


【ビル・ピエロニ氏の経歴】イリノイ大学を卒業後、ハーバード大学でMBAを取得。マ

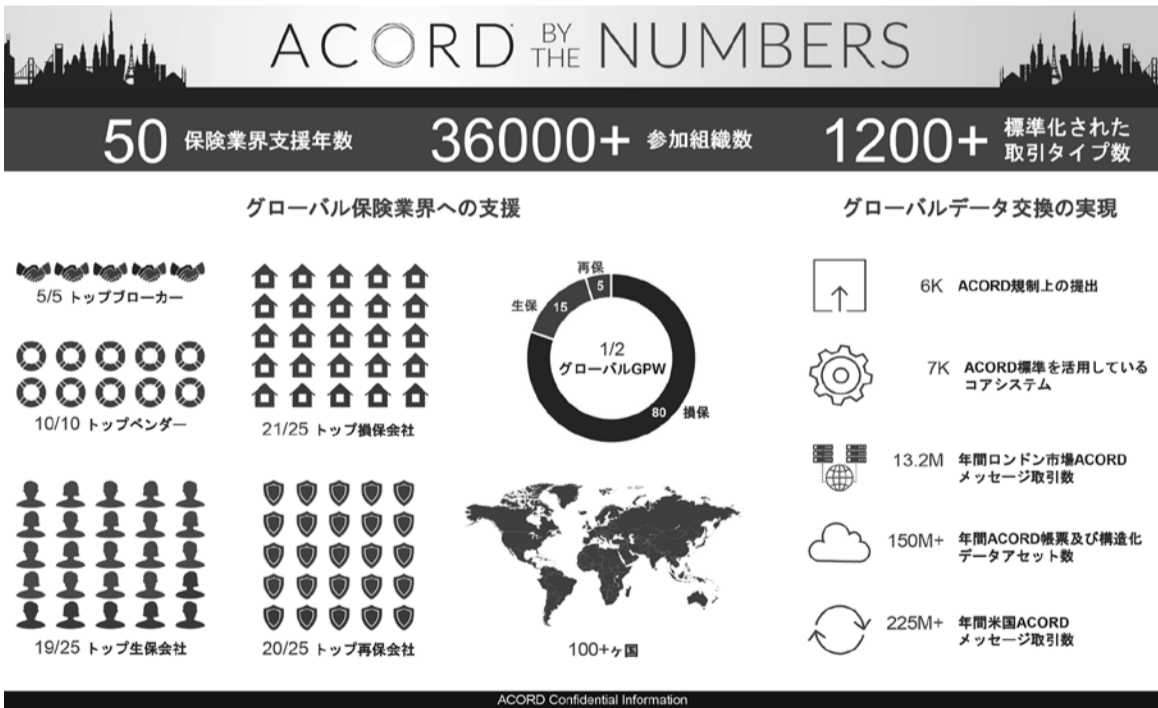
ツキンゼー、アクセシブリティ、IBMといった世界的なコンサルティング、ソリューション業界で要職を経験後、米国の大手保険会社ステートファームで上級役員に。その後、世界最大の保険ブローカー、マーシュ&マ

クレナン社のGlobal COOを務める。

2016年にACORDのヘッドを長年務めたGregory Maciag氏に請われ、ACORDを率いる現社長兼CEOに就任。



NRIとの会談。右から2番目がピエロニ氏



全世界で100カ国以上の市場、3万6,000社を超える企業・団体がACORDに参加しており、世界の保険業界を流通する保険料総額の半分は、ACORD標準により処理されたものとなっている。